

生理学実験技術法講座の連載によせて

日本生理学会教育委員会では富田忠雄前委員長のときに、卒前教育だけではなく、卒後学生 (post-graduate student) の教育も委員会として取り上げてはどうかということになった。それは、若手研究者の育成が生理学の活性化の重要な基盤となると教育委員会で考えたからである。生理学研究所のお申し出もあり、第一回の生理学における実験手技講習会を、生理学研究所で平成2年7月に開催した。そのときのテーマは、(1)パッチクランプ法、(2)細胞内 Ca イオン濃度測定法、(3)細胞内イオン電極法であった。その後、テーマを多少変更したが、毎年、この講習会は継続され今日に至っている。この講習会では各実験法についての講義があり、講義を聴講してからそれぞれの実習をおこなう。その講義に使われるテキストの内容は好評で、受講者以外の方からも入手希望があった。

丁度そのころ、教育委員会では、卒前学生を対象とした新・生理学実習書を編集しており、もう少し高度な実験法に関する手引き書を advanced course として刊行するか否か検討していた。これまで実験法に関する成書はあったが、成書として刊行するにあたってはいろいろ検討すべき問題があり懸案となっていた。しかし、教育委員会で医学教育に関するアンケートとともに、実験法刊行の必要性についても意見を伺ったところ刊行の希望が強かったのである。これを受けて教育委員会で更に検討した結果、日本生理学雑誌に連載をお願いしてはどうかということになり、編集委員会のご賛同をいただき実現のはこびとなった。

実験法講座としてとりあげたテーマは、パッチクランプ法、細胞内 Ca イオン濃度測定法、ビデオマイクロスコーピー法で、その中でも希望が多かったパッチクランプ法に関する実験技術法から始めることになった。企画は岡田泰伸教授（生理学研究所）にお願いし、ここに実験技術法講座の連載を始めるに至った。この講座が実現したのは、金子章道編集幹事のご理解と、日本生理学会編集委員会のご支援があったからである。また、実際の企画にあられた岡田泰伸教授、ならびにこの企画にご賛同いただき原稿をお書きいただいた先生方に教育委員会を代表して深甚の謝意を表します。

日本生理学会教育委員会

委員長 栗原 敏